

# 講演録

## KOUENROKU

### 適切な行動で災害から命を守る

る暴風雪により、湧別でトラックが道路を逸脱し、近くの家に避難をしようとして歩いているところで動けなくなり、父が子どもを抱きかかえて亡くなった事故がありました。14年には北海道で初めて大雨特別警報が出ました。16年には4つの台風が次々来ています。平成の後半で大きな災害が毎年のように起きていくことが分かります。

あらためて平成を振り返ってみたいと思います。2004年には北見豪雪がありました。4日間雪が降り積もり、北見市が陸の孤島と化しました。同じ年の9月には台風18号が来て、1954年の洞爺丸台風以来の強風をもたらした。たくさん木の木が倒れました。06年、国道333号のトンネル工事中のプレハブ事務所が丸ごと吹き飛ばされ、9人の若い技術者が亡くなりました。これだけの竜巻はかつてなかった。悲しい災害でした。10年、上川豪雨災害が起きました。天人峽と旭岳温泉が孤立し、多くの人がヘリコプターで救助されました。13年は爆弾低気圧によ

北海道で大雨となる気圧配置パターンは決まっています。まず1つは、前線や低気圧があり、雨を降らせる原因があること。2つ目は本州周辺に台風があることです。3つ目は日本の東海上に高気圧があることです。この3つがそろると、間違いなく大雨になります。

橋台の裏は危険です。16年の台風では、日高管内で4人が亡くなっています。このうち3人は、橋台背部に転落して亡くなっています。最近の講習会では、私は雨が降ったら外に出るな、川に近づくな、橋を渡るな、運転しないで、と言っています。

「線状降水帯」という言葉が聞

### 北海道気象技術センター代表取締役 松岡 直基さん

(6月28日、「測量の日」特別講演会から)



かれると思います。10年の上川豪雨災害のときは、1週間ごとに雨が降っていたような年で、暑い夏でした。本州並みの暑さが、本州並みの雨を降らせました。

せん。Xバンドレーダーは、強い雨雲ができては、上空の風に流されて内陸に進むというのをとらえています。土石流の被害が出て、橋が流されたりしました。

平成になってから北海道での雨の降り方が変わったと感じています。強い雨、スコールのような雨が降るようになった。温暖化のせいかなと思います。

雨の降り方が変わったので、気象庁では大雨特別警報を13年に作りました。翌年、北海道で大雨特別警報がでました。雨が降り始めて大騒ぎして、緊急速報メールがバンバン鳴ったのを覚えていますが。天気図を見ても予想ができません。いろいろな行事をやっています。

平成の時代、北海道で吹雪で9人も亡くなることはショックでした。災害から5日後に現場を見に行きました。このときも地吹雪が発生しました。ところが、上空を見ると晴れているんです。風だけが強い。全然前が見えなくて、真っ白でした。

13年3月2日。土曜日の午前、どこも晴天でした。ちょうど春休みで、いろいろな行事をやっています。

たんですね。午後からおちくのは分かっていただけども、つい外出してしまっ。20分の間に風速が1・7倍から13・3倍に急変し、さらには20倍超える風になり、あつという間に悪くなっていきました。これだけの犠牲の後、気象台の発表は「見通しが全くきかない猛吹雪」車の運転が困難「外出は控えてください」と、具体的な表現に改善されました。こうした表現が出たら、慎重になってください。

個人の行動、防災担当者が適切な行動を取らないと災害は防げないと思います。自分の命は自分で守る。家族の命は自分たちで守る。周辺の人も守るといふ気概を持っていただきたい。経験則は非常に大事です。ただ、知ったかぶりをして「これは大丈夫」というのが一番危ない。これから自然現象もダイナミックに変わりますから、真摯(しんしん)に自然災害に向き合っていたいただきたいと思っています。

まつおか・なおき 1952年生まれ、旭川市出身。長年気象調査や災害活動に従事するともに、一般住民向けの防災講演などしている。